

阿佐谷伊織会通信 No. 12

編集発行：高木 登

第 12 回「阿佐谷伊織会」講談会

開催日：2025 年 8 月 1 日（金）19 時開演

場 所：阿佐ヶ谷ワークショップ

演 目：第一話 怪談「耳なし芳一」（古典）

第二話 「人でなしの恋」（江戸川乱歩作より）

参加者：15 名（懇親会参加：15 名）

● 近況報告と開演にあたって—『被爆太郎の物語』が東京講演に続いて長崎で講演—

今回初めての試みとして平日の夜に開催となりました。

7 月の初めに開催案内のメールを出してから参加の連絡があったのはわずか 6 名で、その後伊織さん経由で 3 名の御参加の連絡をいただき、開催当日までの参加者は全部で 10 名でしたが、当日会場への直接参加もあって 15 名の参加者となりました。

台風 9 号の関東方面接近の心配もありましたが大した影響もなく、却ってこのところの暑さも和らぎ、お出かけしやすい天候となったのは幸いでした。

今回は、開催日の日程も初めての試みなら、いろいろな面で初めて尽くしのことがありました。その一つに、照明でボランティアの古河さんがスマホを駆使して本日の講演の怪談にふさわしい照明をされたのと、いつもの開演前のお囃子の太鼓の CD 操作がうまくいかず、急遽、河上さんがスマホを使って開演のお囃子太鼓を流してくれました。

開演にあたってのマクラで伊織さんから、東京新聞に掲載された『被爆太郎の物語』の記事「神田伊織 長崎原爆の日の 9 日」に、伊織さんの紹介に年齢記載があったことに対して、一言（というより多弁に）反論の御意見を語られました。

この『被爆太郎の物語』は 23 年 8 月にネタおろした、長崎で被爆体験されたある男性の証言をもとにした話で、1 年前の 24 年にも講演され、今年は 8 月 6 日、9 日と東京で講演したあと、24 日には念願の長崎で講演されることになることが報告されました。

● 第一話：「耳なし芳一」

平家物語の中の壇の浦の合戦を平家の怨霊たちの前で語る芳一の盲目の琵琶法師芳一の物語で、この話しありは 23 年の 7 月にも語れており、阿佐ヶ谷ワークショップでは 2 年ぶりの講演でした。内容についてはよく知られている話でもあるので省略とします。

● 第二話：「人でなしの恋」

江戸川乱歩作の人と人形の恋、情死の物語で、この話しありは、24 年 1 月から始まったなかの芸能小劇場での「伊織のおんな」シリーズの第 1 回目に一度高座にのせられています。

話のはじめに、怪談ではないが「不気味で、あやしい話」として紹介された後、角野（かどの）という一人の女が語る物語として展開されていく。

19歳で陰気で人付き合いを好まない青年角野と結婚した女性が、その10年後に語る話としての不思議で怪しげな話である。

結婚から半年の間は世間の評判とは全く異なる夫の角野と幸せな新婚生活を過ごすが、半年後から夫の態度がどこか微妙に変化していき、女は怪しみ、苦しむようになる。

女はある晩、こっそり夫の後を追って土蔵の蔵に忍び込む。蔵の二階に通じる階段を昇ると上げ蓋に錠がかけられて開けることが出来ない。女はそこで夫が女とささやいている声を聞く。女は茂みに隠れて夫が蔵から出た後、夫の相手の女が出てくるのを待つがいつまでたっても出てこない。

それで女はある日、意を決して昼間にその蔵の二階に昇って、そこに置いてある長持ちを開けて中身を調べ、そこに三尺ほどの女人形を見付け、夫の相手の女の正体を知り、女の声は夫が声色を使っていたことが分かる。女はその人形の顔や手足を滅茶滅茶に壊して長持ちに戻す。

その晩、いつものように夫は蔵に出かけ、女はその後を付ける。が、その晩はなぜか上げ蓋は開けられたままで、階下に二階の明かりが漏れて照らしている。

女が二階に上がると、そこには短刀で自害した夫が人形を抱いて死んで横たわっていた。人形は心なしか、女を見て何か微笑んでいるような表情をしている。

泉鏡花の小説の中に迷い込んだような、江戸川乱歩の小説からの話である。

● 懇親会（参加者：15名）

今回は全員が懇親会に参加されました。

いつも懇親会の料理を準備していただいている河上さんは、二日間大阪万博を見学してまわり、そこで出会ったオランダやドイツ、スペイン、モロッコ、日本などのお国料理を御自身で作られ、それぞれの料理一つ一つに、その国の国旗を手作りで作って、つま楊枝で料理に付けて提供するという凝りようでした。それだけの料理をわずか3時間で作り上げたと言われ、まさに神業としか思えない素晴らしい料理でした。河上さんは、もう一度大阪万博に行かれるということで、さらには24日、伊織さんの24日の長崎での「原爆太郎の物語」の講演会にも行かれるということです。河上さんは、伊織さんの「家来」を自称されています。

歓談では、前回もワークショップの掲示板を見て参加された伊東さんは演芸全般にわたっての愛好者であるだけでなく、チェロ演奏を聴くのも楽しまれており、偶然にも今回初参加の花谷さんはチェロ演奏を趣味として弾いておられ、また伊織さんの立ち講釈の常連参加者でもあり、伊東さんと花谷さんのお二人のお話しさは周りを引き込んで盛り上りました。

今回初めての参加をされた長谷川さんは、大学生のお孫さん同伴での御参加。お孫さんは大学で写真を専攻されているということで、伊織さんの講談を楽しまれたということでした。

【寄贈品】日本酒：山口三重子様

● 会計報告 (藤丸健一副会長より)

木戸銭 : 1500 円 × 15 名 = 22,500 円 (神田伊織さんへの謝礼としてお渡ししました)

前回の残高 : 12,180 円

今回の入金 : 7,500 円

【内訳】懇親会費 500 円 × 15 名 = 7,500 円

出費 : 11,250 円

【内訳】東急フードショー (河上さん料理の材料費) : 5,299 円

トリヤマ : 2,610 円

ローソン : 3,341 円

残高 : 8,430 円 (次回繰越金)

● 伊織さんの今後の予定 (伊織さんが当日用意されたチラシより)

8月8日 (水) 19時開演、池袋・木星劇場にて、池袋夜間飛行・第17夜「恨みと裁き」

神田伊織 (講談) 「明治奇譚 恩義のしがらみ 後編」

東家三可子 (浪曲) 「歌川国芳一問黒猫異聞」(北角文月作)

木戸銭 : 2500 円 (ワンドリンク付き)

8月27日 (水) 18時45分開演、西荻窪・三ツ矢酒店にて「西荻ほろ酔い寄席」

神田伊織・橘家文吾 二人会

木戸銭 : 1000 円

9月6日 (土) 18時開演、野外イベントスペース、GREEN PATH (流山おおたかの駅)

河上慶子さん主宰、流山怪談: 古典怪談「小幡小平次」、山本周五郎作「風流化物屋敷」

木戸銭 : 1500 円 (ワンドリンク付き)

9月14日 (日) 14時開演、巣鴨・スタジオフォー、「神田伊織講談会—伊織ひとり一」

主宰: 花谷さん、木戸銭 : 2500 円 (予約)、当日 3000 円

9月20日 (土) 14時45分開演、中野芸能小劇場にて、神田伊織連続講談会

講談と文学: ユゴー原作「レ・ミゼラブルよりシャンマチュ一事件」

菊池寛原作「恩讐の彼方に」

木戸銭 : 2300 円

● 次回阿佐谷伊織会開催について

日程はまだ決まっていませんが、11月をめどに伊織さんの御都合とワークショップの佐竹さんとの間で調整していただき、決定次第お知らせします。

以上